

1

①

気楽

②

分

かれて

③

正体

④

台本

⑤

家元

2

1

A

ウ

B

ア

2

ことわざ

3

エ

4

I

五字

小さななべ

二十八字

つまら

II

入る

5

ア

×

イ

○

ウ

○

3

1

ウ

2

I

すき

II

死んじ

3

I

ゲーム

II

特別

4

頭

5

イ

6

エ

配点

1

各2点×5=10点

2~3

各5点×18=90点

<計>100点

- ① ②「別」、⑤「家本」と書かないように気をつけること。

②

1 A 「ぐつぐつ」は煮こむ場合に使う。

B 「あたりまえ」のことなのにあえてする場合に使う。

2 この文章は「小さななべはすぐたぎる」という外国のことわざについて書かれている。

3 直前にも「そんなのあたりまえじゃない」とあるので、さらに前を見る。

4 I 「小さななべ」は「すぐたぎ」って、「器の小さい人」は「つまらないことで、すぐに腹をたてたり、かっとなっておこりだす」のである。

II 「小さななべ」と「器の小さい」人との共通点である。

5 A 「大きななべ」ではなく「小さななべ」である。

I 最後の段落の内容から考える。

ウ ヨーロッパやインドなどが使われている国の例としてあげられているし、日本ではそういう人のことを「器が小さい」「度量がせまい」と言っていることから考える。

③

1 「ふしぎなモノ」の具体的な説明が後に書かれている。

2 I 「人や動物」が「スケスケ」に見えるところがふしぎなので、あとは意味が合うようにあてはまることをさがす。

II すけて見えていた「ボス」や「ハムハム」はどうなったのか。

3 I 「目のつかれ」は字数に合わないので、ほかの言い方をさがす。

II 「ぼく」ははじめはよくわかっていなかったが、すけて見えていた「ボス」や「ハムハム」が死んでしまったことで、「もうすぐ死んじゃうひとや動物が、すけて見えちゃう特別な力がある」のではと考えるようになった。

4 怒っている。腹をたてる、に近い意味である。

5 A「うそ」ではない。ウ「死んでしまう」のがわかるのはこれより後である。エ「こわく」なるのも後ろから三行めの話である。

6 マイナスの心情になる。「くやしくて」はあきらかにおかしい。同じ段落のはじめにも、「こわくなった」とある。

以 上